

◇ほのぼの◇

地元の道の駅に本校の展示コーナーを設け、竹原高校を応援したいと、いま地域の方々より声をかけていただいています。

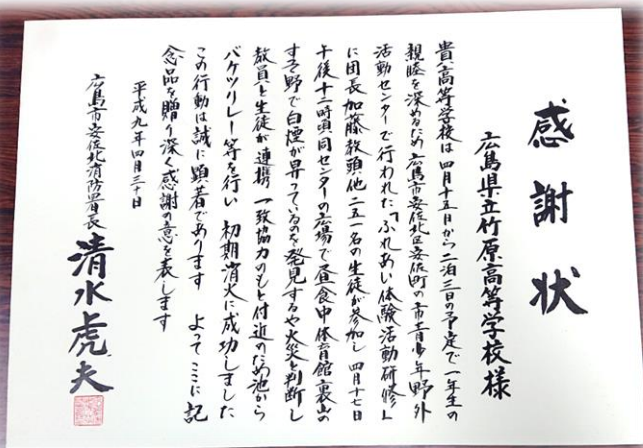
展示していただく記念誌やパネルなどを探している最中、24年前の感謝状と新聞記事がでてきました。

そこには、合宿中の1年生 235 人が山林火災をバケツリレーで食い止めたとの記事が書かれており、なぜかほのぼのとした気持ちになりました。

現在の全校生徒よりも大きな規模の学年集団で、みなさんが力を合わせて消火活動された様子を想像し、思わず新聞記事を見入ってしまいました。

当時は15歳。今年40歳を迎えられる年齢でしょうか。

コロナ禍にあり、生徒達はボランティア活動ができない日々が続いていますが、状況が早く落ち着き、一日も早くボランティア活動等をとおして地域に貢献したいと願うばかりです。



清水署長宛から感謝状を受け取る生徒代表



校外活動中に発見

竹原市の竹原高校（入江慎爾校長）の一年生たちが、広島市安佐北区の市青少年野外活動センター近くで発生した山林火災を、バケツリレーで食い止めたとして、安佐北消防署から三十日、同校に感謝状が贈られた。

同センターでの「ふれあい体験活動」の最終日だった十七日午後、グラウンドで弁当を食べていた二百三十五人の一年生、十六人の教職員が白煙を発見、近くのため池からバケツリレーをして延焼を防いだ。安佐北消防署によると、火事は同センターの焼却炉の飛び火が原因。センター職員も消火栓からホースを延ばして放水、約十分後に下草など〇・六坪を焼いて消し止めた。当時は乾燥注意報が出ており、適切な初期消火が延焼を防いだ、という。

感謝状の贈呈式は、一年生が出席して竹原高の体育館であり、秋井悠子さん（二毛）、杉山愛さん（二毛）が代表して清水虎夫署長から感謝状を受け取った。秋井さんは煙を吸ったことで火が消えた時は「ホッと」と話していた。